

頭ヶ島の開拓指導者 前田儀太夫

1858 年、頭ヶ島の最初の住民は、開拓を目的に中通島の有川集落から移住してきた仏教徒の前田儀太夫だった。彼は北部の福浦集落に住居を構えた。福浦集落は、頭ヶ島のなかでは比較的風の当たりが弱く、水量は少ないながらも川が流れ、船がつけやすいなど、島内では最も生活条件の良い場所であった。儀太夫は、すぐ裏手に神社がある海岸の近くに屋敷を構えた。後年には神社に隣接する一族の墓地もつくった。

1859 年には、開拓のために儀太夫が募った数家族が中通島から頭ヶ島へと移住した。この移住者たちは、大村藩と五島藩との協定により外海から中通島へと移住していた潜伏キリシタンだった。彼らは、中通島で、表向きは仏教徒を装いながら仏教徒の先住者たちとの軋轢を避けてきたが、無人の頭ヶ島を安住の地と考え再び移住した。仏教徒である儀太夫と行動を共にすることも、キリシタンであることをカモフラージュするのに都合がよかった。

Caption

前田儀太夫の墓地

※墓地は個人所有のため立ち入りはご遠慮ください。

前田儀太夫の墓碑に刻まれる「頭ヶ島由来記」

儀太夫の墓碑の 4 面中 3 面には、「頭ヶ島由来記」と題された文章が刻まれています。この文章には、開拓の状況やその歴史、人口や戸数などが記されており、頭ヶ島の歴史の重要な史料となっています。